

よじよい村政の実現のために①

行政評価システムの導入を

行政の業務は、大きく分けると、「政策(基本目標)」、「施策(目的達成の方策)」、「事務事業(具体的事務や事業)」の3つの構造で成り立っています。

しかも、法律(自治法2条14)には「その事務を処理するに当っては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最小の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない」と示されています。

樋口は「この視点に立ち、さらに、よじよい村政の実現」を目指すために、行政のすべての事務事業について、『計画』『実施』『評価(見直し)』『改善』の行政評価システムを、早急に確立しなければならぬと主張しています(9月定例会議)。

神奈川県Y市では、「市民の皆さんの視点に立つた『成果重視』の行政運営を進めることや、既存の制度を総合的に見直していくことが求められ、こうした課題解決に向けた手段として、行政評価システムを導入しました。」と導入の理由を述べています。

また「一般に行政では、実施した活動の成果を市民の視点に立つて点検・評価することが不十分でした。」と、反省をします。

一流の会社でも、お客様の批判や苦情を謙虚に受け止め、「苦情は次の宝である」との企業精神と社員教育を行なっています。

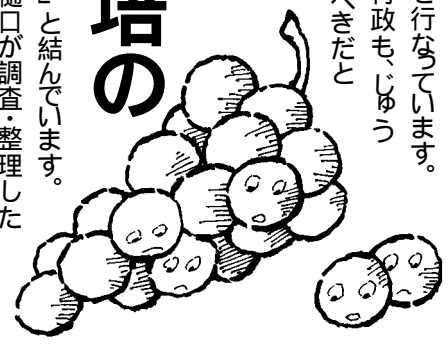
山中湖村政も「じょうぶんに字がぶかきだ」と思います。

ワイン用ぶどうの栽培の実績と見直し

よじよい村政の実現のために②

「広報11」(11月1日配布)の記事によれば、今年(2005年)のワイン用ぶどう4品種の総収穫量は、1988年に栽培をはじめたから最高の、691(昨年)は、460(だった)と報告されています。

そして、今後更なる収穫量の増加および質の向上に確かな手ごたえを感じています。



「下の表をご覧ください。」
そこで、樋口が調査・整理した

公表された総収穫量2,690を、10a(一反部)あたりに換算すると98です。ところが、勝沼町では10a(一反部)あたり1,500、くらい収穫できますが、品質を上げるため、1,000くらいに調整して収穫します。また、寒い北海道池田町では、同じく10aあたり約800の収穫量です。

したがって、標準的には10a(一反部)あたり800~1,000となり、一番良かった今年の山中湖の収穫量は、標準の約10分の1というところになります。

『住民自治力』が課題

11月1日、山梨学院大学で開催された、地方自治に関する公開フォーラムに参加しました。地方議会のおかれた、議員の役割、地方自治政治の課題など、とても勉強になりました。

中央政治では、閉ざされた利益集団の要求を配分するこれまでの政治手法が限界となり、一気に変革の時代となりました。

特に地方自治では、これまでのぶら下がる陳情型政治から、『住民の自治力』が問われる時代だそうです。

具体的には、自分たちを代表する首長や議員の選び方の再確認、住民の暮らしに合った法律(自治条例)の制定など、日頃考えたり感じていることを、率直に発言、議論していくことが必要だと再認識しました。

住民が動きだした 村内光ファイバー網への夢

日本を世界一の情報通信社会にするため、総務省では全国に光ファイバー網をつなぐ計画(FTTH)を展開しています。

これは、通信や放送などのますます大容量化する情報を、高速で送信せよというもので、利用の仕方は無限に広がっていきます。

たとえば、単にインターネットが今までより速くなるだけではなく、地域の防災情報と対策、高齢者や弱者がタイムリーで安心して受けられる福祉、また、教育の立体的活用、動画や音声もついた観光情報の相互通信、さらに、企業の情報関連部門を誘致する通信環境の整備などです。

世の中には大量の情報があふれています。それを知恵に変え、その知恵を地域活性化の経済力に変えていくには、その前提として光ファイバーの全村への敷設が何より必要です。

今、このような夢と志をもった住民が、目標に向かって動き出しています。実現に向けて協力していきましょう。

品 種	植付本数	植付面積(a)	H17年度収穫量()			H16年度収穫量()		
			収量	10a当	1本当	収量	10a当	1本当
ヤマブウラン(白)	900	35	生育不良のため廃止					
ミラトツルガリ(白)	200	15	生育不良のため廃止					
S-9110(セベル白)	204	15	120	80	0.59	60	40	0.29
ヤマソービニオン(赤)	642	38	873	230	1.36	1,100	289	1.71
S-13053(セバ赤)	604	36	320	89	0.53	100	28	0.17
清舞(赤)	2,307	185	1,377	74	0.60	200	11	0.09
計(下段4品種)	3,757	274	2,690	98	0.72	1,460	53	0.39

平均収穫量 800~1,000 村の目標は3.0

栽培を始めた平成12年度の目標設定は1本の木から3本となっています(10a当り400)。しかし、今年(2005年)は0.74で目標の4分の1以下です。

栽培事業は、すでに5年が経過しており、これまでの実績の具体的な数値による評価(見直し)、『継続か中止か』の検討が

よじよい村政の実現のために③

未来を担う子どもたちのために 皆で考えよう!

今、日本全国の教育現場では、教師も生徒も重い課題を抱えています。

先日ある父兄から「山中湖の未来を担う子どもたちのために、教育にも尽力して欲しい」との電話を頂戴しました。不十分ながら取材や調査をしています。教育現場の教師も生徒も、毎日解決に向けて真剣に取り組んでいます。

一方、教育は家庭、地域、学校(現場)が一体となった連携がどうしても必要であると考えます。父兄や家族が「我が子」の現状を悩むのは当然ですが、子育てを終えた人たちも「自分たちの村の子ども」の問題として、一緒にかかわってみようではありませんか?

服装が何となく目に付く子、コンビニや自動販売機の前でうろついている子には、さりげなく声をかけましょう。時として叱らなければならぬ場面も想定されますが、まず声かけから始めましょう。この際、家庭内での大人の話題や会話にも、声かけが必要かもしれません。子ども力をつくします。

観なども考え合わせ、最小の経費で最大の効果を挙げているのかどうかを、評価すべき時です。

皆さんのご意見を是非お聴かせいただきたいと思えます。

どもは、大人の言動を、実によく観察しているからです。

先日、東京の地下鉄で、「生命は大切なものだ」と何度もいわれるより、「二度いいから、おまえが大切なのだ」といって欲しい」という意味のボスターを見た時、ドキッとした問題がある。今の時の子どもは、と一般論で片づけがちですが、村民一丸となり、すれちがう一人一人の子どもの心に、よりそうことを提案します。

皆さまの相談、提言、提案をお待ちしています。

微力ながら、全力をつくします。

【案内】お気軽にご参加ください

これからの山中湖を考える会

湖周辺の景観整備への実情、光ファイバー網での可能性を語る、子どもの目と満天の星が輝くネパールの旅報告

ゲスト3人による報告

12月6日(火)夜7時~9時 於:山中湖村情報創造館(図書館奥)

【お知らせ】定例会議:12月9日~16日開催の予定です。